

大病院・病

大病院なら、どんな病気でも診断し治療できると思込んでしまっている人がいる。しばしばいる。大きな病院ならなんでも解決すると信じこんでいる人を「大病院・病」と(小生が)いう。

例えば、こちらの能力を見極めてからどこかを(つまり、解決できる病院のこと)紹介せよ、あるいは、(自分が信じている)かかりつけの医師にみてもらうというなら、こちらも不快に思うことはないのだ。

そもそも、どこの病院、医院であろうと、選ぶのは患者の権利であるから別に口出しする気もないし、お好きなように、である。-----ただ、あまりに、「大きな病院でない」と-----という人が増えて、その弊害がでてくる(すでにでている)ようなら問題である。「開業医」を町医者といって、下にみる傾向があつて、現実にはひどいものもいるらしいが、優秀な人も数多くいるのも事実である。痔や盲腸(虫垂炎)などの「隠れた名医」が開業していることなどいくらでもある。開業医に要求されるのは、自らの限界を超えるとき早めに「設備やスタッフの整った然るべき病院に紹介」することができる能力が、そのひとつである。

最近まで、小生、いわゆる大病院にいたし、大病院しか知らなかったのも、例えばただの「風邪ひき」や「下痢」や、ひどいになると、しんどいからビタミン注射してくれ、などと言って来られても面倒なだけで、あからさまに書けば本当に大病院が必要な人の邪魔になることもあることを、しばしば経験してきた。

では、なぜ大病院志向になるか、その理由をいくつか考えてみよう。

1) 大病院には、公立の病院が多い。このため税金で、高価な(たとえば、何十億円もする)器具・器械が揃っていて、より詳しく検査してくれるであろう。----- * これは、精密な検査云々については、一部正しい。

2) 大病院の中の、上の方の役職の人は、よく TV や新聞にでていて、的確な答えをだしている(と、視聴者は判断する)。だから、他の医師も優れているだろう、という判断----- * 二つとも間違っている。以下、理由についてはすべて後述。

スタッフも多いから、何かあったときにすぐに対応してくれるだろう、という期待が生じてくる。-----

* 間違い。

3) 「日本の名医」とか、いう類の本が数多くでている。この中には、著作も多く、有名な人がいる。だから「名医」と思って行く。院長だから、部長だからと信用する。----- * 間違い。

4) 逆にすでに述べたように、町医者だから医療レベルは低いだろうと思う。----- * 間違い。

5) たとえば、近所の医者にかかると、自分の家の内情がわかって、プライバシーまでのぞかれるような気になったり、あるいは医療ミスがあったときに、近所づきあいがしにくくなる、など、気まずい思いをする可能性。・・・これは一理あるかもしれない。あるいは全くナンセンスな発想なのだが、ある程度の社会的地位にある人が医療機関を受診するとき、大病院でないとは格好が悪いとかいう理由。----- * これも一理あるかも知れない。なぜなら、一流の医療機関に知己がいない、顔がきかないのはみっともないからというわけである。芸人でもそうです。

6) まだまだあるだろうが、バカバカしくなってきた。指摘されてから考えよう。

以下、「後述」と書いてきた部分について、少しだけまとめる。

1) 大病院には医師、看護師などのスタッフが数多く働いており、ここから、「なぜかわからないのだが」論理が飛躍して「優秀な人材も豊富だろう」と考える人がいるらしい。これは明らかなまちがった判断で、沢山いたら誰か優秀な人がみえてくれるだろうという発想であるが、とんでもない。ほったらかしにされることなどしょっちゅうです。

人間の知的レベルなんか、そんなに差があるものではない。何かいいアイデアがひらめいた、と思いつきのその場のアイデアで治療して「やっぱりあかんかったか」ですまされる可能性もあるのだ。スタッフが多ければ、いろんな性格の人もいて「ギスギスした雰囲気」になっていたりもする。決して「病院」というひとくくりの単位ではない。優秀なスタッフはやはり限られた数しかいないのである。

2) 医療器械は、確かに優れた高価なものが網羅されているかも知れないが、それを解析し(よみとって)判断するのは、各個人の医師である。その能力を問うているのである。だから、判定したのは誰か、と署名をするのであって、二重三重のチェックをぐりぬけるなど、いくらでもある。それでも給料を払っている限り、仕事をさせないといけない。こういうのは要らない人材なのである。やむなく、ダメ元でやらせる。だから大病院に誤診がないなど、実はあり得ないことなのである。

3) 大病院の上の方の人には、云々の項。彼らの仕事は会議、会議の連続で、重要なものもあるが、そんなことまで会議がいるのかといったことまである。現場とかけ離れすぎていることもある。

また、事実、優秀であったかも知れないが、歳月人を欺かず。さらには、その部下が優秀であるかどうかは、全く、別の次元の話である。ゴマスリだけで出世するのもある。名将の元は弱卒だらけだったりして。

4) 何かあったらすぐ対応……なんかしてくれへんで。対応の鈍さがひとつの特徴である。ひとりで決定することができないようなのが、いつのまにか、どんな手を使ったか、部長になっていて、「人材不足やな」を実感したことなど(名前はだせないが)何人もいます。

循環器の当直(CCU 当直)が、患者の心肺機能が停止しているのにツツカケでチンタラ歩いて来よって、余程殴ってやろうか、と思ったことが幾度もある。だから、大病院・病の人が考えていることは単なる誤解である。事実とかけ離れている。但し、看護婦の反応は一般的に医者よりも、まともなことが多い。……何事にも例外がありますが。

5) 本物の名医は本当にいるだろう。ただ TV や本はある意味コマーシャルだから、彼らがミスをしたという保障もない。どうも、ずれたことが書いてあって、まさか誤植じゃないだろうな、と思ったことは結構ありませ。実際に受診した人の話をきいたら、面白い話を聞くことができるかも知れない。

著書が沢山あったり学会に出張ばかりしているなら、その時間を削って患者を診たらどうや、と思うこともあるし、時々必要な本もあって、これはやむなし、ということもある。患者の不安感を助長することもある。(全部読破したわけでもないが)

6) 開業医といっても、卒業してすぐに開業医の人はいない。充分か不十分かはともかく、少なくとも大病院の一部で研修し、実績をあげた人がほとんどである(と思いたい)。

十把一からげにするべきではないと思うのだが。

また、開業医のメリットは、同じ人が毎日居ることである。時間があれば、メンタル・ヘルス・ケアもしてくれるだろう。地域医療の充実という使命感に燃えている人もあれば、蓄財に走る人もあ

るだろう。ひとつ重要なことがある。患者が選ぶ名医と業界からみる名医とは、異なるときがあるだろうことである。それでも患者が「これでいい」というなら、それはそれでかまわないか。

ある人が書いていたことだが、院長が「患者さま」というところは胡散臭いで。……直後にその実例を目の前で見て笑いをこらえるのに困った。

7)2-6-2 の法則をご存知だろうと思う。五人に一人は仕事をしているようであるが実は他の人の邪魔をしているという意味である。たとえば、ある大病院に 100 人の医師がいるとしよう。すると席次をつければ 1 番から 100 番までいることになる。……ある聡明なご婦人がここに通院していて、内容をきくと実は何もしていない。3 ヶ月に 1 回顔見せするだけである。上のことを小生が言うと……「すると 90 番くらいかしらネ」息が詰まるほど笑った。

この 1 番から 100 番は基準に多少の差があるから、常に一定ではないけれどもどこにでもあてはまる。ある会社の人に話したら、「どこの世界でもおんなじでんな」。箸にも棒にもかからないのがいて、指導するところではない。まだ若い頃こんなのに出会って何年かしてひょいと名簿をみたら、公立病院のどこかの部署の部長になっていたのには、驚きを通りこしてあきれてしまった。

大病院では、たとえば臓器移植やそこでしかできない治療法というものが存在することがある。で、そういう患者は世間・新聞・TV も注目するから大事にする。……別の理由もある。「論文の対象」になるからである。そして出世するには、論文の質・量が問われるのである。では、論文の対象にならない患者の場合は、どうするか。「流して(ルーティーン・ワークとして)何人診察したという、数字の辻褄合わせ」に使われるのである。だから、ときどき横柄な態度をとりよる。(これについては、別の機会に述べる。)

「患者なんかナンボ死んでもええ、論文の方が大事や！」と喚いたのもいるし、他人の仕事をあたかも自分がしたように、盗んでしまうのもいる。だから、学生がデッチ上げていても、目の前にぶらさがっている「名誉や功名心」に惑わされてしまうのである。

では、大病院の医師の対極にあるのを開業医と考えてみよう。

中にはひどいのもいて、(これは大病院も同じであるが)、利尿剤にアルダクトンだけを処方して、尿の出方は以前と変わらないし、挙げ句に高カリウム血症をつくり……心臓が突然とまるで、と患者にのまないように注意したことは再三あるし、骨粗鬆症の治療といって検査もしないでカルシウム剤を注射しすぎて腎障害をつくったのもいる。枚挙に暇(イマ)がない。

開業医の役割のひとつは、いかに早く自らの能力乃至自らの施設の能力を超えているかを判断することである。そして「然るべき」病院を紹介することである。

では、開業医は絶対に大病院にかなわないか、といえば決してそんなことはない。すでに書いたように盲腸(虫垂炎)や痔などあちこちに隠れた名医が存在するものであるし、前回も書いたが、知っているか知らないかが重要なのであって、そう見くびったものでもないのである。知識レベルの高い人も、人格が優れた人もいるし、多士済々である。たしかに蓄財に走る人もいるようだが、地域医療向上のための使命感に燃えている人もいるのである。

以下、折に触れて実例をあげて、延々と続きます。おおむね自分も含めた医者の悪口である。